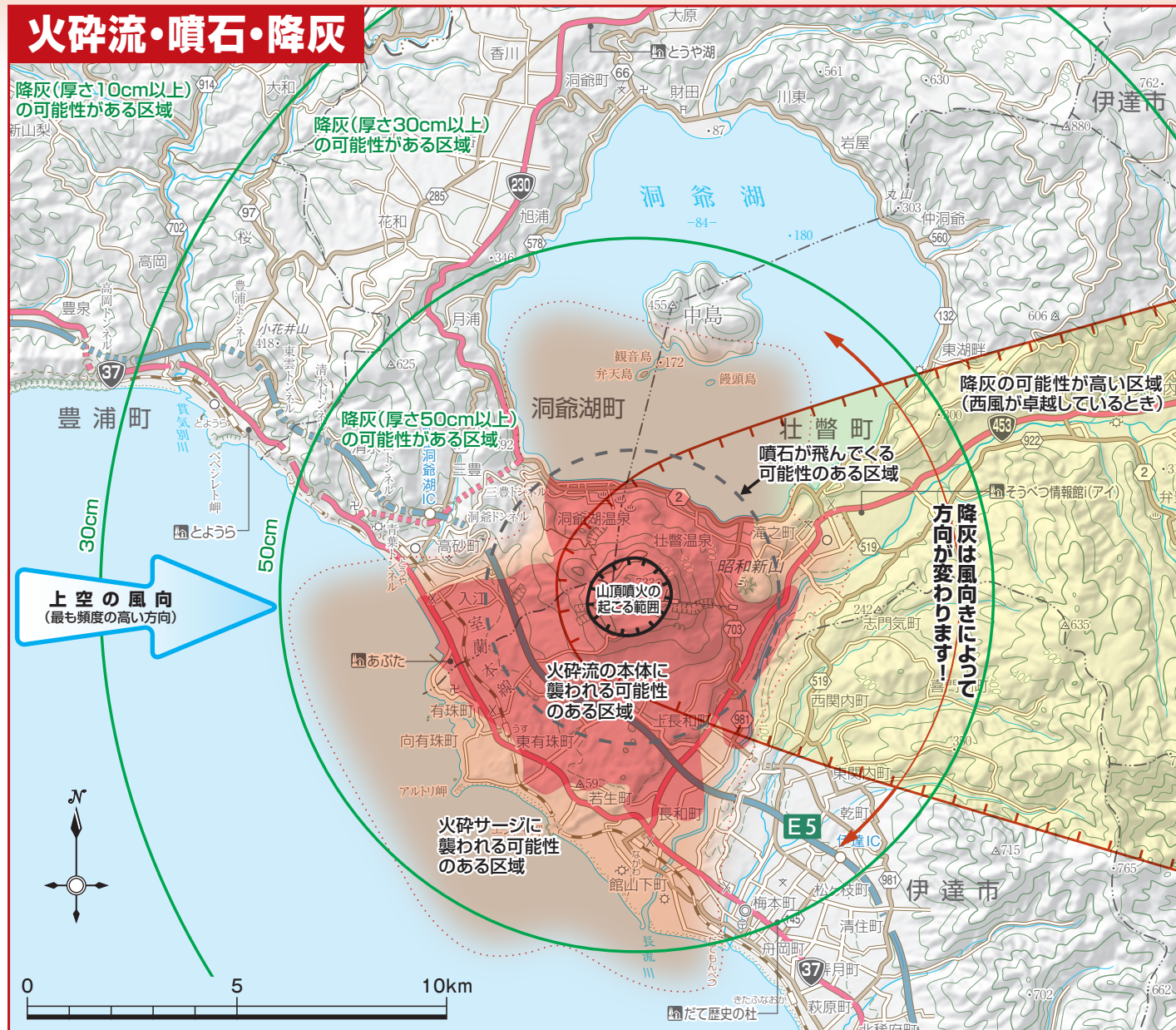


新たな備えのために

有珠山火山 防災マップ

山頂噴火の危険区域予測図

火砕流・噴石・降灰



「測量法に基づく国土院院長承認(使用)R2JHs 773」

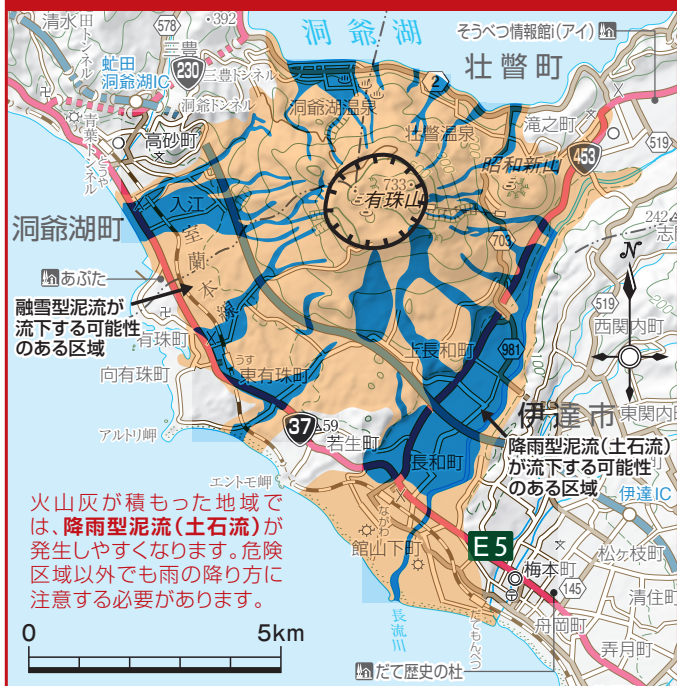
この予測図は、1822年(文政5年)噴火と同じ規模の**山頂噴火**が起きた場合に、予想される災害の範囲を示したものです。

噴火の規模や気象条件などによって危険区域の範囲は変わります。

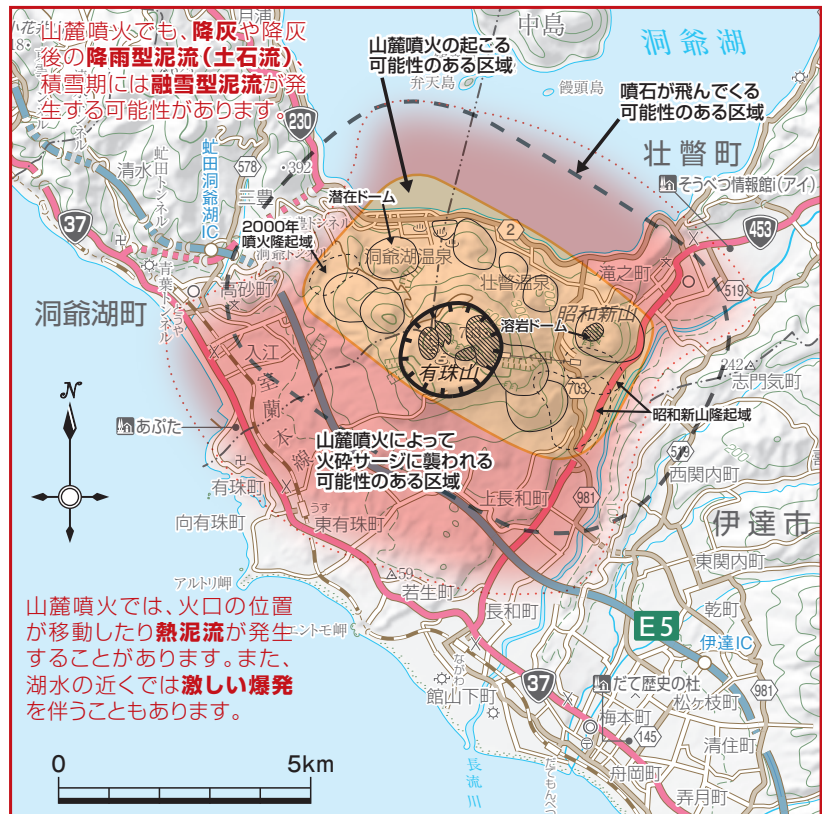


小規模な火砕サージ(1978年8月)

融雪型泥流・降雨型泥流(土石流)



山麓噴火の危険区域予測図



火口の位置によって危険区域は変わります！

山麓噴火はある限られた地域で起きるので、この危険区域全体が同じように危険だということを示しているわけではありません。火口の位置については事前に特定することが出来ないので**昭和新山噴火**と同じくらいの規模の「**山麓噴火**」が起こる可能性のある範囲の全域を総合して示してあります。実際の山麓噴火では、火口の位置によってこの図の**一部分が噴石や火砕サージの危険区域**となります。噴火がはじまった場合には、火口の位置にあわせた危険区域があらためて示されます。噴火の規模などによっても、危険区域の範囲は変わります。

噴石・降灰



火口から放出された噴石や火山灰による建物への被害(2000年噴火)

熱泥流



火口から流出した熱泥流による建物などへの被害(2000年噴火)

火砕サージ



洞爺湖に流入する火砕サージ(1944年噴火-昭和新山)

降雨型泥流(土石流)



降り積もった火山灰が降雨によって泥流となって流出(1977-78年山頂噴火)

地殻変動



地殻変動によって階段状になった国道(2000年噴火)

多数の火口



多数の火口が次々に形成された(1910年噴火)

火山現象に関する警報等の種類

噴火警報

噴火警報は、噴火に伴って、生命に危険を及ぼす火山現象の発生が予想される場合やその危険が及ぶ範囲の拡大が予想される場合に「警戒が必要な範囲」を明示した上で、噴火警戒レベル2～5のいずれかを付して発表します。

噴火予報

噴火予報は、火山活動の状況が静穏である場合、あるいは噴火警報には及ばない程度ではあるが、火山活動の状況等を周知する必要があると認める場合に噴火警戒レベル1を付して、発表します。

噴火速報

登山者や周辺の住民に対して、噴火の発生をお知らせする情報です。噴火が発生した事実を速やかにお知らせするため、火山名と噴火した時間のみの情報です。

降灰予報

噴火により、どこにどれだけの量の火山灰が降るか(降灰量分布)や、風に流されて降る小さな噴石の落下範囲の予測を伝える情報です。

火山ガス予報

居住地域に長時間影響するような多量の火山ガスの放出がある場合に、火山ガスの濃度が高まる可能性のある地域を発表します。

火山現象に関する情報は、「**噴火警報**」、「**噴火予報**」、「**噴火速報**」、「**降灰予報**」、「**火山ガス予報**」、及び「**噴火警戒レベル**」等があります。